

かがやく

創刊号
 発行者
 ひたちなか市
 企画部女性・国際課
 ひたちなか市東石川2-10-1

主な内容 | 2~3面 市民インタビュー
 4面 男女共同参画センターでは



↑ 展示会場



← バザー会場

多くの
市民が集まった
フェスタ会場

夫婦で助け合っ
て家庭を築くこ
とを心掛
け、実行してい
ます。出か
ける時は五歳
の長男と三
人
でいつも一緒
ですね。
(50代・女)

私は用事など
で外出
しがちな
のですが、
昨年定年退
職した夫が
家事や近所
付き合いに
も積極的
なので助
かります。子
どもの成
長期は家
庭をまっ
たく顧
みないよ
うなモー
レツ会
社員だっ
たので
すが…
(30代・男)

Q ご家庭でのパートナーシップは？

子育てをしながら女性が社会に出られる環境が必要。そういう環境整備が少子化の解決にもつながるのでは。
(30代・男)

男社会でこれまででしたが、女性の意識も変わっていかなくてはいけないと思います。男性に頼っている部分にも女性が意見を出せるよう、家庭の中から変えていくことが大切ですね。
(50代・女)

海外在住の際、ごく自然なこととして行われていた。日本では、特別な形で行動を取らねばならない点は、まだ発展の途上であると感じられる半面、活動をはじめるといふのはとてもよいことであると思つた。
(30代・男)

表面的には男女共同参画についての意識は高まっていると思つていますが、根本的なところではまだまだだと思つた。
(50代・女)

言葉としては聞いたこともあつて知つてはいましたが、意味が分かつたのは会場を訪れてからです。これからの時代には必要なことだと思つた。
(50代・女)

とてもいいことだと思つた。若い人たちには積極的にアピールしていくことが大事。
(60代・男)

言葉としては聞いたこともあつて知つてはいましたが、意味が分かつたのは会場を訪れてからです。これからの時代には必要なことだと思つた。
(50代・女)

言葉としては聞いたこともあつて知つてはいましたが、意味が分かつたのは会場を訪れてからです。これからの時代には必要なことだと思つた。
(50代・女)



支え合つていこう

男女共同参画社会をめざして

男女共同参画社会とは、男性と女性が対等なパートナーとして、自分の意志で職域、学校、地域、家庭などに共に参画し、協力しながら、一人ひとりの個性と能力を生かし、喜びも責任も分かち合い充実した生き方が選択できる社会です。
 市は、毎年11月を男女共同参画強調月間と定め、その強調月間事業の一環として、ハーモニーひたちなかを中心とした市民グループとともに、初めての「男女共同参画フェスタ」を開きました。会場に訪れた皆さんに「男女共同参画」について感想とご意見を伺いましたので、その一部をご紹介します。

男女共同参画センターでは…

男女共生セミナーを行っています



男性と女性のよりよい関係を築くための各種講座や学習会を開催しています。

★いろいろなセミナーを企画しています。詳しくは市報でお知らせいたします。託児付きの講座もあります。

皆さんの市民活動を応援します

市民グループのみなさんの活動をサポートしています。

男女共同参画を推進する市民の方は研修室などを利用できます

- ◆ 研修室1 (50人)
 - ◆ 研修室2 (10人)
- 夜や土・日曜日、祝日も利用できます。申込みは男女共同参画センターへ(平日8時30分~17時)

女性のための相談窓口を開いています

DVやストーカーなどの暴力、離婚などの家庭内問題のご相談に応じます。
 相談専用電話
029-274-3002
 平日9時~16時30分



男女共同参画センター
 〒312-0018 ひたちなか市笹野町2-8-2
 TEL・FAX 029-354-0167
 Eメール: danjo282@juno.ocn.ne.jp

編集後記

市が昨年開いた男女共同参画に関する講座で学習した方に市民記者として編集全般にわたって関わっていただき、「かがやく創刊号」を発行することができました。この編集に携わった天野幸治さん、吉澤清子さん、鈴木文子さんに深く感謝します。今後とも、市民の皆さんとともに男女共同参画の実現に向けて取り組んで参ります。
 (市 女性・国際課)

男の私は「産みの苦しみ」などと安易に言べきではないでしょうが、この創刊号の産声には初孫並みの喜びを感じます。(A)
 ほんの小さな思いやりが人と人を支え合う絆になるのだと取材を通し感じました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。(S)
 初めてで戸惑うことばかり、よい経験をさせていただいた。取材をして、福祉が男女共同参画の原点ではないだろうかと思つた。(Y)

人々と地域のために

地域で、家庭で、職場で、それぞれの立場で、男性女性にかかわらずよりよい、パートナーシップを築くために
ご活躍中の3人の方に市民記者がインタビューしました。



○女性の校長として苦労されたことは？
三十六年間の教師生活を振り返って、苦労したということは特にありません。教職員や保護者、地域の方々に支えられ学校経営が出来て、この上ない幸せを感じています。創立百周年記念式典、事業に際しても地元住民の闘志あふれるご協力を感謝しており、深く感謝しております。

○男女共同参画への期待、市民へのメッセージを一言
豊かな活力のある平等な社会をつくる上でも、女性の進出は望ましいこと。しかし、女性らしさは保ち続けてほしいですね。例えば、出産して母乳を与えることは女性にしかない誇りです。そして、世の中がどう変わろうとも家庭を大事にして、両親から「愛する」ことを、母親からは「愛」というものを学ばせてほしい。かけがえない子どもの成長を楽しみに、幸せな人生を送っていただきたいのです。

「愛」と「挑戦」を胸に

市立那珂湊第二小学校 校長 大森郁子さん

とにかく、意欲的に挑戦すること。ほかの人にできて自分にできないことはない、と私なりに努力してきました。

壁にぶつかった時、人生の大先輩である両親が軌道修正してくれたものです。

当校では子どもたちが魅力を感じる授業をめざし、教職員ともども努力してきましたが、学校へ行くのが楽しみという児童の多いのは、とてもうれしいことです。

○教育者としてのモットー、若い人々への助言を私のモットーはチャレンジ精神。

懸命さが地域に伝わる

おやこ劇場ゆめひろば 代表 野口千代子さん

小・中・高と3人の男の子をお持ちの野口さんは、おやこ劇場ゆめひろば、子ども会、PTAの役員として地域の子育てに積極的に関わっている元気なお母さん。

はサポーターとして保護者と学校のパイプ役になれるよう、楽しい活動にと、盛り立てています。一生懸命やっていくと、学校にも、地域にも、何かが伝わっていきま

すね。

○家庭でのパートナーシップは？

パートナーと子どもの教育に対し、日ごろから何でも話し合っています。彼も地域の子育てに積極的で、登録制の「パワフルパパの会」に参加し、お父さん同士の交流を深めています。子どもたちは「何かあったらお父さんが学校に話に行くよ」と言ってくれています。

また、家族の一員としての自覚が身につくよう、子どもたちには自主性を尊重して小さい時から家事を手伝ってもらっています。今では簡単な家事なら頼めるようになりましたよ。

○子育て中の一言

ひとりで悩まず仲間をつくってほしいです。お友達同士で、地域の中で、みんなで子育てすれば、楽になりますよ。



○現在の活動に至る原点は

子どもと一緒に劇を見たいと入会したのがおやこ劇場との出会いです。例会を企画運営し、劇を作り上げていく過程に接したことが後の地域活動につながりました。子ども会では、その手法を生かして企画を提案したり、PTAで

自分を再発見できる場

介護ヘルパー 五十嵐庸夫さん

○介護を学ぶきっかけは？

パートナーが病気になる時、自分が会社人間で、何をしたらよいか分からず、家事で苦労したんですよ。何かやれることはないかなと、ヘルパーの2級を取りました。その時は男性ではまだめづらしかったのですが、少しでも人の役に立てればと思いました。

○今はどんな活動を？

月・火・水曜日は、高場のデイケアセンターでヘルパーを、木曜日は市の社会福祉協議会で高齢者の配食サービスをやっています。ひとり暮らしのお年寄りに届けた時



に喜んでいただくのは何よりの励みですね。対話に花が咲く時、お年寄りの笑顔に信頼されているという実感があります。

金曜日には障害児の付き添いボランティアで、車いすの子とのふれあいを、また土・日曜日には地域の公民館や防犯協会での活動にも参加しています。

○地域活動への思いを一言

いつも感じることは、ボランティアに男性が少ないこと。地域や教育の場にもっと男性が参加することで、子どもたちへの思いやりや優しさはぐくまれるのではないかと思います。ボランティアは難しくなく、自分を再発見できる素晴らしい場です。

女性も地域の中でリーダーをどんどん引き受け、よいパートナーとなれたら素晴らしいですね。

ボランティア活動こそ、男女の区別なく人格を尊重できる、優しい思いやりの原点の場ではないでしょうか。